

土師ダムの効果について



土師ダムは、昭和49年3月に多目的ダムとして建設されました。

江の川の本格的な改修は、昭和28年から行われて来ましたが、昭和40年・47年に、従来の計画以上の降雨で、相次ぎ大洪水に見舞われました。このことにより、基本高水を大幅に改定し、ダム群の建設により、尾関山における基本高水10、200m/sを7、600m/sに調整されました。土師ダムはこれを基本計画として、①江の川の治水対策 ②広島市東部及び呉地区の工業用水、生活用水の補給（太田川だけでは不足するので、土師ダムからパイプライン送水を実施。）

③江の川沿川の干ばつ対策の水源確保 ④発電（太田川水系に送水する水を利用して発電。）の四つの目的を兼ねる多目的ダムとして役割を果たしています。運用に当たっては、梅雨や台風の頻度が多い洪水期（6月～10月）に、水位を下げて洪水調整に必要な容量を確保しています。また、洪水の頻度が少ない非洪水期（11月～5月）は、水量を確保し、飲料水・工業用水の供給や発電の利水とされています。このダムの活用方法により定められた、治水独自でダムを建設した場合の費用と、利水独自でダムを建設した場合の費用（身代わり建設費）の比率

により、土師ダム建設費用の負担が行われております。

また、近年の集中豪雨などで、降雨特性が建設時の想定から変化してきています。北広島島の降雨による流入でダムが放流すると、江の川の水位が上昇し、同時に安芸高田市に降雨があると、例えば、



多治比川の流水が江の川に流れなくなり、内水の被害が生じることがあります。このような場合「適応操作」により放流量を出来るだけ少なくし、下流域地区への被害を低減して頂いています。

最近では、7月3日17時から5日13時にかけての集中豪雨で土師ダム流域に232mmの降雨があり、ダムに流入

する水量が820m/sを記録しました。これに対し土師ダムによる「適応操作」で、吉田地区ではそのまま放流するより1.4mの水位低下ができ、被害の低減が出来ました。

河川の高水敷は、江の川では野球の練習グラウンドなどとして活用されています。土師ダムは広島市に近い全国にまれな里ダムであり、都市部から移動しやすい絶好な場所に位置しています。国としても、建設時から高水敷の活用で格段の配慮がなされています。市にとって土師ダムは、①ダムを周るサイクリング道路（自転車道） ②サッカー場等運動広場 ③「のどろ公園」等の公園広場 ④ダムを周遊する「桜並木」、また近年では、⑤西日本一を誇る「BMXコース」 ⑥「グラウンドゴルフ場」 ⑦子どもの遊び場としての「遊具」の整備 ⑧カヌー競技場といった、スポーツ・観光・環境・防災等街づくりに欠かせない空間です。主目的である治水対策や利水に支障を与えない範囲で、活用をお願いしているところです。

高水敷の利用は、ルール（洪水時には、遊具・ネット・仮設トイレなど、浮遊する可能性のあるものは移動。）を守って有効活用することが大切であると考えます。

安芸高田 歴史紀行



あの日の記憶は 写真の中にII [7]

安芸高田市歴史民俗博物館 学芸員 古川 恵子

推定：昭和23年（1948） 「横田村立横田中学校」 （美土里町横田）

横田中学校は、昭和22年に横田小学校校舎の一部などを使って創立。同24年に本村中学校と統合して組合立誠和中学校横田分校となり、同47年には北生中学校と統合して美土里中学校が誕生。現在地（本郷）に校舎が建てられました。

写真に年代は記されていませんが、式典を撮影したもののようです。中央の白布のかかる机では式辞を読み上げているところでしょうか。左側の玄関で腰かけるのは来賓のようです。庭に並ぶ生徒の服装は様々で、ぞうり姿もみえます。奥には多くの大人も参列しています。これらから写真は創立の翌年、昭和23年9月15日に行われた校舎の落成式の様子と考えられます。

現在の義務教育である中学校の制度は、教育の機会均等などを目的に同22年に始まります。戦後の困窮した時代に新たな学校の建設は、地域にとって金銭的にはもちろん物資・労力におよぶ大きな負担となりました。しかし、地域の努力と協力により各地に校舎が建てられ、徐々に体制も整っていきました。

（個人蔵）

